



# 鳥取県公報

平成 26 年 3 月 28 日 (金)  
号外第 37 号

毎週火・金曜日発行

## 目 次

- ◇ 規 則 鳥取県精神保健及び精神障害者福祉に関する法律施行細則の一部を改正する規則  
(23) (障がい福祉課) . . . . . 3

## ==== 公布された規則のあらまし ====

◇鳥取県精神保健及び精神障害者福祉に関する法律施行細則の一部改正について

1 規則の改正理由

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律及び中国残留邦人等の円滑な帰国の促進及び永住帰国後の自立の支援に関する法律の一部改正に伴い、所要の改正を行う。

2 規則の概要

- (1) 精神保健指定医の診察及び保護に係る申請書その他の様式を改める。
- (2) 精神障害者に係る保護者の制度の廃止に伴い、保護者が行う通知を廃止する。
- (3) 規則の規定中引用している精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の条項及び中国残留邦人等の円滑な帰国の促進及び永住帰国後の自立の支援に関する法律の名称を改める等の所要の規定の整備を行う。
- (4) 施行期日等
  - ア 施行期日は、平成26年10月1日とする(3)に関する事項の一部を除き、平成26年4月1日とする。
  - イ 所要の経過措置を講ずる。

# 規 則

鳥取県精神保健及び精神障害者福祉に関する法律施行細則の一部を改正する規則をここに公布する。

平成26年 3 月 28 日

鳥取県知事 平 井 伸 治

## 鳥取県規則第23号

鳥取県精神保健及び精神障害者福祉に関する法律施行細則の一部を改正する規則

第 1 条 鳥取県精神保健及び精神障害者福祉に関する法律施行細則（昭和49年鳥取県規則第31号）の一部を次のように改正する。

次の表の改正前の欄に掲げる規定を同表の改正後の欄に掲げる規定に、下線で示すように改正する。

改 正 後	改 正 前
<p>(診察及び保護の申請)</p> <p>第 2 条 <u>法第22条第 2 項</u>の申請書は、様式第 1 号によるものとする。</p> <p>(費用の徴収)</p> <p>第 8 条 総合事務所長又は福祉保健事務所長は、<u>法第 31条の規定に基づき</u>、別表に定める額を、毎月、精神障害者又はその配偶者若しくは精神障害者と生計を一にする直系血族若しくは兄弟姉妹から徴収する。ただし、これらの者が生活保護法（昭和25年法律第144号）による保護又は中国残留邦人等の円滑な帰国の促進並びに永住帰国した中国残留邦人等及び特定配偶者の自立の支援に関する法律（平成 6 年法律第30号）による支援給付を受けている場合は、この限りでない。</p> <p>2・3 略</p> <p>(医療保護入院の届出等)</p> <p>第10条 法第33条第 7 項の規定による届出は、次の各号に掲げる入院の区分に応じ、当該各号に定める様式による届出書により行わなければならない。</p> <p>(1) <u>法第33条第 1 項又は第 3 項</u>の規定による入院 様式第11号</p> <p>(2) <u>法第33条第 4 項後段</u>の規定による入院 様式第12号</p>	<p>(診察及び保護の申請)</p> <p>第 2 条 <u>法第23条第 2 項</u>の申請書は、様式第 1 号によるものとする。</p> <p>(費用の徴収)</p> <p>第 8 条 総合事務所長又は福祉保健事務所長は、<u>法第 31条の規定による入院に要する費用として</u>、別表に定める額を、毎月、精神障害者又はその配偶者若しくは精神障害者と生計を一にする直系血族若しくは兄弟姉妹から徴収する。ただし、これらの者が生活保護法（昭和25年法律第144号）による保護又は中国残留邦人等の円滑な帰国の促進及び永住帰国後の自立の支援に関する法律（平成 6 年法律第30号）による支援給付を受けている場合は、この限りでない。</p> <p>2・3 略</p> <p>(医療保護入院の届出等)</p> <p>第10条 法第33条第 7 項の規定による届出は、次の各号に掲げる入院の区分に応じ、当該各号に定める様式による届出書により行わなければならない。</p> <p>(1) <u>同条第 1 項</u>の規定による入院 様式第11号</p> <p>(2) <u>同条第 2 項</u>の規定による入院 様式第12号</p> <p>(3) <u>同条第 1 項に規定する場合における同条第 4 項後段の規定による入院 様式第12号の 2</u></p> <p>(4) <u>同条第 2 項に規定する場合における同条第 4 項後段の規定による入院 様式第12号の 3</u></p>

<p>2 略</p> <p>(応急入院の届出)</p> <p>第11条 法第33条の7第5項の規定による届出は、次の各号に掲げる入院の区分に応じ、当該各号に定める様式による届出書により行わなければならない。</p> <p>(1)・(2) 略</p> <p>(事故の届出)</p> <p>第17条 精神科病院の管理者は、入院中の措置入院者が事故により死亡したときその他措置入院者に事故があったときは、直ちに様式第23号による届出書によりその旨を総合事務所長又は福祉保健事務所長に届け出なければならない。</p>	<p>2 略</p> <p>(応急入院の届出)</p> <p>第11条 法第33条の4第5項の規定による届出は、次の各号に掲げる入院の区分に応じ、当該各号に定める様式による届出書により行わなければならない。</p> <p>(1)・(2) 略</p> <p>(事故の届出)</p> <p>第17条 精神科病院の管理者は、入院中の措置入院者が事故により死亡したときその他措置入院者に事故があったとき、又は次項の通知を受けたときは、直ちに様式第23号による届出書によりその旨を総合事務所長又は福祉保健事務所長に届け出なければならない。</p> <p><u>2 法第40条の規定により仮に退院した措置入院者の保護者は、措置入院者が行方不明になったときその他措置入院者に事故があったとき、又は行方不明となった措置入院者を発見したときは、直ちにその旨を精神科病院の管理者に通知しなければならない。</u></p>
--	--

第2条 鳥取県精神保健及び精神障害者福祉に関する法律施行細則の一部を次のように改正する。

別表を次のように改める。

別表（第8条関係）

区分	徴収額
所得税額が1,470,000円以下の場合	0円
所得税額が1,470,001円以上の場合	20,000円（入院に要する費用として県が負担する額が20,000円に満たないときは県が負担する額とし、月の中途から入院を開始し、又は終了したときは日割りをもって計算する。）

備考 この表において「所得税額」とは、精神障害者並びにその配偶者並びに精神障害者と生計を一にする直系血族及び兄弟姉妹の前年分（1月から5月までにあつては、前々年分）の所得税の額を合算した額をいう。

様式第1号中「第23条第1項」を「第22条第1項」に改める。

様式第2号中「保護者」を「入院に同意した家族等（医療保護入院の場合）」に改める。

様式第3号及び様式第4号を次のように改める。

様式第3号（第4条関係）

診察依頼書

精神保健指定医 様

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第 条第 項の規定により、下記のとおり診察を依頼します。

年 月 日

職 氏 名 印

記

精神障害者又はその疑いのある	現在場所	
	居住地	

者	氏名	性別	男・女	生年月日
診察年月日				
診察場所				

様式第 4 号 (第 4 条関係)

措置入院に関する診断書

申請書の形式	i 親族又は一般人申請 (第22条)    ii 警察官通報 (第23条) iii 検察官通報 (第24条)            iv 保護観察所長通報 (第25条) v 矯正施設長通報 (第26条)        vi 精神科病院管理者届出 (第26条の2) vii 医療観察法対象者 [指定通院医療機関管理者通報、保護観察所長通報] (第26条の3) viii 県知事職務診察 (第27条第2項)		
申請等の添付資料	i あり                                  ii なし		
被診察者 (精神障害者)	フリガナ		生年 年 月 日生
	氏名	(男・女)	月日 (満 歳)
	住所		
	職業		
病名	1 主たる精神障害 ICDカテゴリー ( )	2 従たる精神障害 ICDカテゴリー ( )	3 身体合併症
生活歴及び現病歴 (推定発病年月、精神科受診歴等を記載すること。)	(陳述者の氏名 続柄 )		
初回入院期間	年 月 日～ 年 月 日 入院形態 ( )		
前回入院期間	年 月 日～ 年 月 日 入院形態 ( )		
初回から前回までの入院回数	計 回		
重大な問題行動 (Aはこれまでの、Bは今後おそれある問題行動)	現在の精神症状、その他の重要な症状、問題行動等、現在の状態像 (該当のローマ数字及び算用数字を○で囲むこと。)		
01 殺人	A B	<現在の精神症状>	
02 放火	A B	I 意識	
03 強盗	A B	1 意識混濁    2 せん妄    3 もうろう    4 その他 ( )	
04 強姦	A B	II 知能 (軽度障害、中等度障害、重度障害)	
05 強制わいせつ	A B	III 記憶	
06 傷害	A B	1 記銘障害    2 見当識障害    3 健忘    4 その他 ( )	
07 暴行	A B	IV 知覚	
08 恐喝	A B	1 幻聴    2 幻視    3 その他 ( )	
09 脅迫	A B	V 思考	
10 窃盗	A B	1 妄想    2 思考途絶    3 連合弛緩    4 滅裂思考	
11 器物損壊	A B	5 思考奔逸    6 思考制止    7 強迫観念    8 その他 ( )	
12 弄火又は失火	A B	VI 感情・情動	
13 家宅侵入	A B	1 感情平板化    2 抑うつ気分    3 高揚気分    4 感情失禁	
14 詐欺等の経済的な問題行動	A B	5 焦燥・激越    6 易怒性・被刺激性亢進    7 その他 ( )	
		VII 意欲	

15 自殺企図	A	B	1 衝動行為 2 行為心迫 3 興奮 4 昏迷
16 自傷	A	B	5 精神運動制止 6 無為・無関心 7 その他 ( )
17 その他 ( )	A	B	Ⅷ 自我意識 1 離人感 2 させられ体験 3 解離 4 その他 ( ) Ⅸ 食行動 1 拒食 2 過食 3 異食 4 その他 ( ) <その他の重要な症状> 1 てんかん発作 2 自殺念慮 3 物質依存 ( ) 4 その他 ( ) <問題行動等> 1 暴言 2 徘徊 3 不潔行為 4 その他 ( ) <現在の状態像> 1 幻覚妄想状態 2 精神運動興奮状態 3 昏迷状態 4 統合失調症等残遺状態 5 抑うつ状態 6 躁状態 7 せん妄状態 8 もうろう状態 9 認知症状態 10 その他 ( )
診察時の特記事項			
医学的総合判断		I 要措置	II 措置不要
以上のように診断する。 <div style="text-align: right;">年 月 日</div> 精神保健指定医の氏名 <span style="float: right;">㊟</span>			

(行政庁における記載欄)					
診察に立会った者 (親権者、配偶者等)	氏名	(男・女)	続柄又は職業	年齢	歳
診察場所					
診察日時	年	月	日	時 分 ~	時 分
職員氏名					
行政庁の措置					
行政庁メモ欄					

備考

- 「生活歴及び現病歴」の欄は、他診療所及び他病院での受診歴も記載すること。
- 平成20年3月31日以前に広告している神経科における受診歴を精神科受診歴に含むこととする。
- 「初回入院期間」及び「前回入院期間」の欄は、他病院での入院期間及び入院形態も記載すること。
- 「重大な問題行動」の欄には、該当する全ての算用数字並びにA及びBを○で囲むこと（Aはこれまでに認められた問題行動を、Bは今後おそれのある問題行動を指す。）。
- 「現在の精神症状、その他の重要な症状、問題行動等、現在の状態像」の欄は、一般にこの書類作成までの過去数月間に認められたものとし、主として最近のそれに重点を置くこと。
- 「診察時の特記事項」の欄は、被診察者の受診態度、表情、言語的及び非言語的なコミュニケーションの様子、診察者が受ける印象等について記載すること。
- 「診断した精神保健指定医の氏名」の欄は、精神保健指定医が自署する場合には、押印を省略することができること。
- 選択肢の欄は、それぞれ該当する算用数字、ローマ数字等を○で囲むこと。

様式第4号の2中「

その他の特記事項	精神保健指定医の氏名	㊟
----------	------------	---

」を  
「

その他の特記事項
----------

」に改める。

様式第5号中「保護者」を「御家族等」に改める。

様式第7号を次のように改める。

様式第7号（第7条関係）

措置入院者措置症状消退届

年 月 日

職 氏 名 様

病 院 名

所 在 地

管 理 者 名

㊟

下記の措置入院者について措置症状が消退したと認められるので、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第29条の5の規定により届け出ます。

措置入院者	フリガナ		生年	年 月 日生
	氏名	(男・女)	月日	(満 歳)
	住所			
措置年月日	年 月 日			
病名	1 主たる精神障害 ICDカテゴリー ( )	2 従たる精神障害 ICDカテゴリー ( )	3 身体合併症	
	入院以降の病状又は状態像の経過 (措置症状消退と関連して記載すること。)			
措置症状の消退を認めた精神保健指定医の氏名	㊟			
措置解除後の処置に関する意見	1 入院継続 (任意入院・医療保護入院・他科)		2 通院医療	3 転医
	4 死亡		5 その他 ( )	
退院後の帰住先	1 自宅 (i 家族と同居, ii 単身)		2 施設	3 その他 ( )
帰住先の住所				
訪問指導等に関する意見				
障害福祉サービス等の活用に関する意見				
主治医の氏名				

備考

- 1  内は、精神保健指定医の診察に基づいて記載すること。
- 2 「措置症状の消退を認めた精神保健指定医の氏名」の欄は、精神保健指定医が自署する場合には、押印を省略することができること。
- 3 選択肢は、それぞれ該当する算用数字、ローマ字等を○で囲むこと。

様式第11号及び様式第12号を次のように改める。

様式第11号（第10条関係）

医療保護入院者の入院届

年 月 日

職 氏 名 様

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（以下「法」という。）第33条第7項の規定により、下記のとおり入院させたので、届け出ます。

病 院 名

所 在 地

管理者名

㊞

医療保護入院者	フリガナ		生年	年 月 日生
	氏名	(男・女)	月日	(満 歳)
	住所			
家族等の同意により入院した年月日	年 月 日	今回の入院年月日	年 月 日	
		入院形態		
第34条による移送の有無	あり なし			
病名	1 主たる精神障害 ICDカテゴリー ( )	2 従たる精神障害 ICDカテゴリー ( )	3 身体合併症	
生活歴及び現病歴 〔推定発病年月、 精神科受診歴等 を記載すること。〕 (特定医師の診察により入院した場合には特定医師の採った措置の妥当性について記載すること。)	(陳述者の氏名 続柄 )			
初回入院期間	年 月 日 ～ 年 月 日 (入院形態 )			
前回入院期間	年 月 日 ～ 年 月 日 (入院形態 )			
初回から前回までの入院回数	計 回			
<現在の精神症状>	I 意識 1 意識混濁 2 せん妄 3 もうろう 4 その他 ( ) II 知能 (軽度障害、中等度障害、重度障害) III 記憶 1 記銘障害 2 見当識障害 3 健忘 4 その他 ( ) IV 知覚 1 幻聴 2 幻視 3 その他 ( ) V 思考 1 妄想 2 思考途絶 3 連合弛緩 4 減裂思考 5 思考奔逸 6 思考制止 7 強迫観念 8 その他 ( )			



<p>&lt;その他の重要な症状&gt;</p> <p>&lt;問題行動等&gt;</p> <p>&lt;現在の状態像&gt;</p>	<p>VI 感情・情動</p> <p>1 感情平板化    2 抑うつ気分    3 高揚気分    4 感情失禁</p> <p>5 焦燥・激越    6 易怒性・被刺激性亢進    7 その他 (    )</p> <p>VII 意欲</p> <p>1 衝動行為    2 行為心迫    3 興奮    4 昏迷</p> <p>5 精神運動制止    6 無為・無関心    7 その他 (    )</p> <p>VIII 自我意識</p> <p>1 離人感    2 させられ体験    3 解離    4 その他 (    )</p> <p>IX 食行動</p> <p>1 拒食    2 過食    3 異食    4 その他 (    )</p> <p>1 てんかん発作    2 自殺念慮    3 物質依存 (    )</p> <p>4 その他 (    )</p> <p>1 暴言    2 徘徊    3 不潔行為    4 その他 (    )</p> <p>1 幻覚妄想状態    2 精神運動興奮状態    3 昏迷状態</p> <p>4 統合失調症等残遺状態    5 抑うつ状態    6 躁状態</p> <p>7 せん妄状態    8 もうろう状態    9 認知症状態    10 その他 (    )</p>																			
<p>医療保護入院の必要性</p> <p>〔患者自身の病 気に対する理 解の程度を含 め、任意入院 が行われる状 態にないと判 断した理由に ついて記載す ること。〕</p>	<p style="text-align: center;">㊞</p>																			
<p>入院を必要と認め た精神保健指定医 の氏名</p>	<p style="text-align: center;">㊞</p>																			
<p>同意をした家族等</p>	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="width:15%; text-align: center;">氏名</td> <td style="width:35%; text-align: center;">(男・女)</td> <td style="width:10%; text-align: center;">続柄</td> <td style="width:10%; text-align: center;">生年</td> <td style="width:30%; text-align: center;">年   月   日生</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(男・女)</td> <td style="text-align: center;">続柄</td> <td style="text-align: center;">月日</td> <td style="text-align: center;">年   月   日生</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">住所</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td colspan="5"> <p>1 配偶者    2 父母(親権者で ある・ない)    3 祖父母等</p> <p>4 子・孫等    5 兄弟姉妹    6 後見人又は保佐人</p> <p>7 家庭裁判所が選任した扶養義務者(選任年月日 昭和・平成 年 月 日)</p> <p>8 市町村長</p> </td> </tr> </table>	氏名	(男・女)	続柄	生年	年   月   日生	(男・女)	続柄	月日	年   月   日生	住所					<p>1 配偶者    2 父母(親権者で ある・ない)    3 祖父母等</p> <p>4 子・孫等    5 兄弟姉妹    6 後見人又は保佐人</p> <p>7 家庭裁判所が選任した扶養義務者(選任年月日 昭和・平成 年 月 日)</p> <p>8 市町村長</p>				
氏名	(男・女)		続柄	生年	年   月   日生															
	(男・女)	続柄	月日	年   月   日生																
住所																				
<p>1 配偶者    2 父母(親権者で ある・ない)    3 祖父母等</p> <p>4 子・孫等    5 兄弟姉妹    6 後見人又は保佐人</p> <p>7 家庭裁判所が選任した扶養義務者(選任年月日 昭和・平成 年 月 日)</p> <p>8 市町村長</p>																				
<p>審査会意見</p>																				
<p>県の措置</p>																				

備考

1  内は、精神保健指定医の診察に基づいて記載すること。ただし、法第34条による移送が行わ

- れた場合は、この欄は、記載する必要はないこと。
- 2 「今回の入院年月日」の欄は、今回貴病院に入院した年月日を記載し、入院形態の欄にそのときの入院形態を記載すること（特定医師による入院を含む。その場合は「法第33条第1項・第4項入院」、「法第33条第3項・第4項入院」又は「法第33条の7第2項入院」と記載すること。）。なお、複数の入院形態を経ている場合には、順に記載すること。
  - 3 「生活歴及び現病歴」の欄は、他診療所及び他病院での受診歴も記載すること。
  - 4 平成20年3月31日以前に広告している神経科における受診歴を精神科受診歴等を含むこととする。
  - 5 「初回入院期間」及び「前回入院期間」の欄は、他病院での入院期間及び入院形態も記載すること。
  - 6 「現在の精神症状、その他の重要な症状、問題行動等、現在の状態像」の欄は、この書類作成までの過去数月に認められたものとし、主として最近のそれに重点を置くこと。
  - 7 「入院を必要と認めた精神保健指定医の氏名」の欄は、精神保健指定医が自署する場合には、押印を省略することができること。
  - 8 「同意をした家族等の氏名」の欄は、親権者が両親の場合は2人目を記載すること。
  - 9 「同意をした家族等の住所」の欄は、親権者が両親で住所が異なる場合に2つ目を記載すること。
  - 10 提出に当たっては、推定される医療保護入院による入院期間及び選任された退院後生活環境相談員を記載した医療法施行規則第1条の5に規定する入院診療計画書の写しを添付すること。
  - 11 選択肢は、それぞれ該当する算用数字、ローマ数字等を○で囲むこと。

様式第12号（第10条関係）

特定医師による医療保護入院者（法第33条第4項）の入院届及び記録

年 月 日

職 氏 名 様

病 院 名

所 在 地

管 理 者 名

㊞

下記の者が特定医師の診察により医療保護入院をしましたので、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（以下「法」という）第33条第7項の規定により、届け出ます。

医療保護入院者	フリガナ		生年	年 月 日生
	氏名	(男・女)	月日	(満 歳)
	住所			
家族等の同意により入院した年月日	年 月 日	今回の入院年月日	年 月 日	
	(午前・午後 時)	入院形態		
病名	1 主たる精神障害 ICDカテゴリー ( )	2 従たる精神障害 ICDカテゴリー ( )	3 身体合併症	
	生活歴及び現病歴 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     推定発病年月、精神科受診歴等を記載すること。                 </div> (陳 述 者 氏 名 続 柄 )			
初回入院期間	年 月 日 ~ 年 月 日 (入院形態 )			
前回入院期間	年 月 日 ~ 年 月 日 (入院形態 )			
初回から前回までの入院回数	計 回			

<p>&lt;現在の精神症状&gt;</p> <p>&gt;</p> <p>&lt;その他の重要な症状&gt;</p> <p>&lt;問題行動等&gt;</p> <p>&lt;現在の状態像&gt;</p>	<p>I 意識</p> <p>1 意識混濁 2 せん妄 3 もうろう 4 その他 ( )</p> <p>II 知能 (軽度障害、中等度障害、重度障害)</p> <p>III 記憶</p> <p>1 記銘障害 2 見当識障害 3 健忘 4 その他 ( )</p> <p>IV 知覚</p> <p>1 幻聴 2 幻視 3 その他 ( )</p> <p>V 思考</p> <p>1 妄想 2 思考途絶 3 連合弛緩 4 滅裂思考</p> <p>5 思考奔逸 6 思考制止 7 強迫観念 8 その他 ( )</p> <p>VI 感情・情動</p> <p>1 感情平板化 2 抑うつ気分 3 高揚気分 4 感情失禁</p> <p>5 焦燥・激越 6 易怒性・被刺激性亢進 7 その他 ( )</p> <p>VII 意欲</p> <p>1 衝動行為 2 行為心迫 3 興奮 4 昏迷</p> <p>5 精神運動制止 6 無為・無関心 7 その他 ( )</p> <p>VIII 自我意識</p> <p>1 離人感 2 させられ体験 3 解離 4 その他 ( )</p> <p>IX 食行動</p> <p>1 拒食 2 過食 3 異食 4 その他 ( )</p> <p>1 てんかん発作 2 自殺念慮 3 物質依存 ( )</p> <p>4 その他 ( )</p> <p>1 暴言 2 徘徊 3 不潔行為 4 その他 ( )</p> <p>1 幻覚妄想状態 2 精神運動興奮状態 3 昏迷状態</p> <p>4 統合失調症等残遺状態 5 抑うつ状態 6 躁状態</p> <p>7 せん妄状態 8 もうろう状態 9 認知症状態 10 その他 ( )</p>			
<p>医療保護入院の必要性</p> <p>〔患者自身の病気に對する理解の程度を含め、任意入院が行われる状態にないと判断した理由について記載すること。〕</p>				
<p>入院を必要と認めた特定医師の氏名</p>	<p style="text-align: center;">㊟</p>			
<p>確認した精神保健指定医の氏名</p>	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">㊟</td> <td style="width: 15%;">診察日時</td> <td style="width: 55%;">年 月 日 (午前・午後 時)</td> </tr> </table>	㊟	診察日時	年 月 日 (午前・午後 時)
㊟	診察日時	年 月 日 (午前・午後 時)		
<p>精神保健指定医が入院を妥当でないと判断した場合の理由</p>				

同意をした家族等	氏名	(男・女)	続柄	生年 月日	年 月 日生	
		(男・女)	続柄		年 月 日生	
	住所					
1 配偶者    2 父母（親権者である・ない）    3 祖父母等 4 子・孫等    5 兄弟姉妹    6 後見人又は保佐人 7 家庭裁判所が選任した扶養義務者（選任年月日 昭和・平成 年 月 日） 8 市町村長						

事後審査委員会意見	
-----------	--

備考

- 1  内は、特定医師の診察に基づいて記載すること。
- 2 「今回の入院年月日」の欄は、今回貴病院に入院した年月日を記載し、入院形態の欄にそのときの入院形態を記載すること（特定医師による入院を含む。その場合は「法第33条の7第2項入院」と記載すること。）。なお、複数の入院形態を経ている場合には、順に記載すること。
- 3 「生活歴及び現病歴」の欄は、他診療所及び他病院での受診歴も記載すること。
- 4 平成20年3月31日以前に広告している神経科における受診歴を精神科受診歴等に含むこととする。
- 5 「初回入院期間」及び「前回入院期間」の欄は、他病院での入院期間及び入院形態も記載すること。
- 6 「現在の精神症状、その他の重要な症状、問題行動等、現在の状態像」の欄は、この書類作成までの過去数月間に認められたものとし、主として最近のそれに重点を置くこと。
- 7 「入院を必要と認めた特定医師の氏名」の欄は、特定医師が自署する場合には、押印を省略することができること。
- 8 「確認した精神保健指定医の氏名」の欄は、精神保健指定医が自署する場合には、押印を省略することができること。
- 9 「同意をした家族等の氏名」の欄は、親権者が両親の場合は2人目を記載すること。
- 10 「同意をした家族等の住所」の欄は、親権者が両親で住所が異なる場合に2つ目を記載すること。
- 11 「事後審査委員会意見」の欄は、法第33条第4項後段の規定による措置を採った場合の記録とする場合に記載すること。
- 12 選択肢は、それぞれ該当する算用数字、ローマ数字等を○で囲むこと。

様式第12号の2及び様式第12号の3を削る。

様式第13号を次のように改める。

様式第13号（第10条関係）

医療保護入院者退院届出書

年 月 日

職 氏 名 様

病 院 名

所 在 地

管 理 者 名

㊟

下記の医療保護入院者が退院したので、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（以下「法」という。）第33条の2の規定により届け出ます。

医療保護入院者	フリガナ	生年	年 月 日生
---------	------	----	--------

	氏名	(男・女)	月日	(満 歳)
	住所			
入院年月日 (医療保護入院)	年 月 日			
退院年月日	年 月 日			
病名	1 主たる精神障害 I C Dカテゴリー ( )	2 従たる精神障害 I C Dカテゴリー ( )	3 身体合併症	
退院後の処置	1 入院継続 (任意入院・措置入院・他科)	2 通院医療	3 転医	
	4 死亡	5 その他 ( )		
退院後の帰住先	1 自宅 (i 家族と同居、ii 単身)	2 施設	3 その他 ( )	
帰住先の住所				
訪問指導等に関する意見				
障害福祉サービス等の活用に関する意見				
主治医の氏名				

備考

1 「入院年月日」の欄は、法第33条第1項又は第3項による医療保護入院の年月日を記載すること。

2 選択肢は、それぞれ該当する算用数字、ローマ数字等を○で囲むこと。

様式第14号中「第33条の4第5項」を「第33条の7第5項」に、「所在名」を「所在地」に、「保護者等」を「家族等」に改める。

様式第15号中「法第33条の4第5項」を「法第33条の7第5項」に、「保護者等」を「家族等」に改める。

様式第16号から様式第17号の2までを次のように改める。

様式第16号 (第13条関係)

措置入院者定期病状報告書

年 月 日

職 氏 名 様

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 (以下「法」という。) 第38条の2第1項の規定により、措置入院者の症状等について、下記のとおり報告します。

病 院 名

所 在 地

管理者名

㊞

措置入院者	フリガナ			生年	年 月 日生
	氏 名	(男・女)		月日	(満 歳)
	住 所				
措置年月日	年 月 日		今回の入院年月日	年 月 日	
			入院形態		
前回の定期報告年月日	年 月 日				
病 名	1 主たる精神障害 I C Dカテゴリー ( )	2 従たる精神障害 I C Dカテゴリー ( )	3 身体合併症		
生活歴及び現病歴 (推定発病年月、精神科)					

受診歴等を記載すること。		(陳述者の氏名 続柄 )	
初回入院期間	年 月 日～	年 月 日	入院形態 ( )
前回入院期間	年 月 日～	年 月 日	入院形態 ( )
初回から前回までの入院回数	計	回	
過去6月間(措置入院後3月の場合は3月間)の仮退院の実績	計	回	延日数 日
過去6月間(措置入院後3月の場合は過去3月間)の治療の内容とその結果 (問題行動を中心として記載すること。)			
今後の治療方針(再発防止への対応含む。)			
処遇、看護及び指導の現状	隔離	i 多様 ii 時々 iii ほとんど不要	
	注意必要度	i 常に嚴重な注意 ii 随時一応の注意 iii ほとんど不要	
	日常生活の介助指導	i 極めて手間のかかる介助 ii 比較的簡単な介助と指導 iii 生活指導を要する iv その他 ( )	
	必要性		
重大な問題行動 (Aはこれまでの、Bは今後おそれのある問題行動)	現在の精神症状、その他の重要な症状、問題行動等、現在の状態像(該当のローマ数字及び算用数字を○で囲むこと。)		
01 殺人	A B	<現在の精神症状>	
02 放火	A B	I 意識	
03 強盗	A B	1 意識混濁 2 せん妄 3 もうろう 4 その他 ( )	
04 強姦	A B	II 知能(軽度障害、中等度障害、重度障害)	
05 強制わいせつ	A B	III 記憶	
06 傷害	A B	1 記銘障害 2 見当識障害 3 健忘 4 その他 ( )	
07 暴行	A B	IV 知覚	
08 恐喝	A B	1 幻聴 2 幻視 3 その他 ( )	
09 脅迫	A B	V 思考	
10 窃盗	A B	1 妄想 2 思考途絶 3 連合弛緩 4 滅裂思考	
11 器物損壊	A B	5 思考奔逸 6 思考制止 7 強迫観念 8 その他 ( )	
12 弄火又は失火	A B	VI 感情・情動	
13 家宅侵入	A B	1 感情平板化 2 抑うつ気分 3 高揚気分 4 感情失禁	
14 詐欺等の経済的な問題行動	A B	5 焦燥・激越 6 易怒性・被刺激性亢進 7 その他 ( )	
15 自殺企図	A B	VII 意欲	
16 自傷	A B	1 衝動行為 2 行為心迫 3 興奮 4 昏迷	
17 その他 ( )	A B	5 精神運動制止 6 無為・無関心 7 その他 ( )	
	A B	VIII 自我意識	
		1 離人感 2 させられ体験 3 解離 4 その他 ( )	
		IX 食行動	

		1 拒食    2 過食    3 異食    4 その他 (    ) <その他の重要な症状> 1 てんかん発作    2 自殺念慮    3 物質依存 (    ) 4 その他 (    ) <問題行動等> 1 暴言    2 徘徊    3 不潔行為    4 その他 (    ) <現在の状態像> 1 幻覚妄想状態    2 精神運動興奮状態    3 昏迷状態 4 統合失調症等残遺状態    5 抑うつ状態    6 躁状態 7 せん妄状態    8 もうろう状態    9 認知症状態 10 その他 (    )
診察時の特記事項		
本報告に係る診察年月日	年    月    日	
診断した精神保健指定医の氏名	⑩	

審査会意見	
県の措置	

備考

- 1  内は、精神保健指定医の診察に基づいて記載すること。
- 2 今回の入院年月日の欄は、今回貴病院に入院した年月日を記載し、入院形態の欄にそのときの入院形態を記載すること（特定医師による入院を含む。その場合は「法第33条第1項・第4項入院」、「法第33条第3項・第4項入院」又は「法第33条の7第2項入院」と記載すること。）。なお、複数の入院形態を経ている場合には、順に記載すること。
- 3 「生活歴及び現病歴」の欄は、他診療所及び他病院での受診歴も記載すること。
- 4 「生活歴及び現病歴」の欄は、前回報告の写しの添付でもよいが、新たに判明した事実がある場合には追加記載すること。
- 5 平成20年3月31日以前に広告している神経科における受診歴を精神科受診歴等を含むこととする。
- 6 「初回入院期間」及び「前回入院期間」の欄は、他病院での入院期間及び入院形態も記載すること。
- 7 「重大な問題行動」の欄には、該当する全ての算用数字、A及びBを○で囲むこと（Aはこれまでに認められた問題行動を、Bは今後恐れのある問題行動を指す。）。
- 8 「現在の精神症状、その他の重要な症状、問題行動等、現在の状態像」の欄は、この書類作成までの過去数月間に認められたものとし、主として最近のそれに重点を置くこと。
- 9 「診察時の特記事項」の欄は、被診察者の受診態度、表情、言語的及び非言語的なコミュニケーションの様子、診察者が受ける印象等について記載すること。
- 10 「診断した精神保健指定医の氏名」の欄は、精神保健指定医が自署する場合には、押印を省略することができること。
- 11 選択肢は、それぞれ該当する算用数字、ローマ数字等を○で囲むこと。

様式第17号（第13条関係）

医療保護入院者定期病状報告書

年 月 日

職 氏 名 様

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（以下「法」という。）第38条の2第2項において準用する同条第1項の規定により、医療保護入院者の症状等について、下記のとおり報告します。

病院名

所在地

管理者名

㊟

医療保護入院者	フリガナ			生年	年 月 日生
	氏 名	(男・女)		月日	(満 歳)
	住 所				
医療保護入院年月日 (第33条第1項・第3項 による入院)	年 月 日	今回の入院年月日	年 月 日		
		入院形態			
前回の定期報告年月日	年 月 日				
病 名	1 主たる精神障害 ICDカテゴリー ( )	2 従たる精神障害 ICDカテゴリー ( )	3 身体合併症		
	生活歴及び現病歴 (推定発病年月、精神科 受診歴等を記載すること。 (陳述者の氏名 続柄 )				
初 回 入 院 期 間	年 月 日～	年 月 日	入院形態 ( )		
前 回 入 院 期 間	年 月 日～	年 月 日	入院形態 ( )		
初回から前回までの入院 回数	計 回				
過去12月間の外泊の実績	1 不定期的 2 定期的 ( i 月単位 ii 数月単位 iii 盆や正月) 3 なし				
過去12月間の治療の内容 と、その結果及び通院又 は任意入院に変更できな かった理由					
症状の経過	1 悪化傾向 2 動揺傾向 3 不変 4 改善傾向				
今後の治療方針 (患者本 人の病識や治療への意欲 を得るための取り組みに ついて)					
退院に向けた取組の状況 (選任された退院後生活 環境相談員との相談状 況、地域援助事業者の紹 介状況、医療保護入院者 退院支援委員会で決定し た推定される入院期間等 について)	選任された退院後生活環境相談員 ( )				
<現在の精神症状>	I 意識 1 意識混濁 2 せん妄 3 もうろう 4 その他 ( ) II 知能 (軽度障害、中等度障害、重度障害) III 記憶 1 記銘障害 2 見当識障害 3 健忘 4 その他 ( )				



<その他の重要な症状>  <問題行動等> <現在の状態像>	IV 知覚
	1 幻聴 2 幻視 3 その他 ( )
	V 思考
	1 妄想 2 思考途絶 3 連合弛緩 4 滅裂思考 5 思考奔逸 6 思考制止 7 強迫観念 8 その他 ( )
	VI 感情・情動
	1 感情平板化 2 抑うつ気分 3 高揚気分 4 感情失禁 5 焦燥・激越 6 易怒性・被刺激性亢進 7 その他 ( )
	VII 意欲
	1 衝動行為 2 行為心迫 3 興奮 4 昏迷 5 精神運動制止 6 無為・無関心 7 その他 ( )
	VIII 自我意識
	1 離人感 2 させられ体験 3 解離 4 その他 ( )
IX 食行動	
1 拒食 2 過食 3 異食 4 その他 ( )	
1 てんかん発作 2 自殺念慮 3 物質依存 ( ) 4 その他 ( )	
1 暴言 2 徘徊 3 不潔行為 4 その他 ( )	
1 幻覚妄想状態 2 精神運動興奮状態 3 昏迷状態 4 統合失調症等残遺状態 5 抑うつ状態 6 躁状態 7 せん妄状態 8 もうろう状態 9 認知症状態 10 その他 ( )	
本報告に係る診察年月日	年 月 日
診断した精神保健指定医の氏名	㊟

審査会意見	
県の措置	

備考

- 1  内は、精神保健指定医の診察に基づいて記載すること。
- 2 今回の入院年月日の欄は、今回貴病院に入院した年月日を記載し、入院形態の欄にそのときの入院形態を記載すること（特定医師による入院を含む。その場合は「法第33条第1項・第4項入院」、「法第33条第3項・第4項入院」又は「法第33条の7第2項入院」と記載すること。）。なお、複数の入院形態を経ている場合には、順に記載すること。
- 3 「生活歴及び現病歴」の欄は、他診療所及び他病院での受診歴も記載すること。
- 4 「生活歴及び現病歴」の欄は、前回報告の写しの添付でもよいが、新たに判明した事実がある場合には追加記載すること。
- 5 平成20年3月31日以前に広告している神経科における受診歴を精神科受診歴等を含むこととする。
- 6 「初回入院期間」及び「前回入院期間」の欄は、他病院での入院期間及び入院形態も記載すること。
- 7 入院後の診察により精神症状が重症であって、かつ、慢性的な症状を呈することにより入院の継続が明らかに必要な病状であること等により1年以上の入院が必要であると判断される場合には、「過去12月間の治療の内容と、その結果及び通院又は任意入院に変更できなかった理由」の欄にその旨を記載すること。
- 8 「退院に向けた取組の状況」の欄については、

- ① 退院後生活環境相談員との最初の相談を行った時期やその後の相談の頻度等
- ② 地域援助事業者の紹介の有無や紹介した地域援助事業者との相談の状況等
- ③ 医療保護入院者退院支援委員会での審議状況等

について記載することとし、③については、必要に応じて医療保護入院者退院支援委員会における審議結果記録の写しを添付した上で、その旨同欄に明記すること。

- 9 「現在の精神症状、その他の重要な症状、問題行動等、現在の状態像」の欄は、この書類作成までの過去数月間に認められたものとし、主として最近のそれに重点を置くこと。
- 10 「診断した精神保健指定医の氏名」の欄は、精神保健指定医が自署する場合には、押印を省略することができること。
- 11 選択肢は、それぞれ該当する算用数字、ローマ数字等を○で囲むこと。

様式第17号の2（第13条関係）

任意入院患者定期病状報告書

年 月 日

職 氏 名 様

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第38条の2第3項に規定する任意入院者の症状等の報告に関する条例第2条の規定により、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（以下「法」という。）第38条の2第3項に規定する任意入院患者の症状等について、下記のとおり報告します。

病 院 名

所 在 地

管 理 者 名

㊞

任意入院者	フリガナ			生年	年 月 日生
	氏 名	(男・女)		月日	(満 歳)
	住 所				
任意入院年月日 (法第20条による入院)	年 月 日	今回の入院年月日	年 月 日		
		入院形態			
前回の定期報告年月日	年 月 日				
病 名	1 主たる精神障害 ICDカテゴリー ( )	2 従たる精神障害 ICDカテゴリー ( )	3 身体合併症		
生活歴及び現病歴 (推定発病年月、精神科 受診歴等を記載すること。)	(陳述者の氏名 続柄 )				
初 回 入 院 期 間	年 月 日～ 年 月 日 入院形態 ( )				
前 回 入 院 期 間	年 月 日～ 年 月 日 入院形態 ( )				
初回から前回までの入院 回数	計 回				
過去12月間の外泊の実績	1 不定期的 2 定期的 ( i 月単位 ii 数月単位 iii 盆や正月) 3 なし				
過去12月間の治療の内容 とその結果 (過去12か月 間に行動制限が行われた 場合は、その必要性につ いて)					
症状の経過	1 悪化傾向 2 動揺傾向 3 不変 4 改善傾向				

任意入院継続の必要性 (通院へ変更ができない理由について具体的に説明すること。)	
今後の退院へ向けた取り組み	
<現在の精神症状>  <その他の重要な症状>  <問題行動等> <現在の状態像>	I 意識 1 意識混濁 2 せん妄 3 もうろう 4 その他 ( ) II 知能 (軽度障害、中等度障害、重度障害) III 記憶 1 記銘障害 2 見当識障害 3 健忘 4 その他 ( ) IV 知覚 1 幻聴 2 幻視 3 その他 ( ) V 思考 1 妄想 2 思考途絶 3 連合弛緩 4 滅裂思考 5 思考奔逸 6 思考制止 7 強迫観念 8 その他 ( ) VI 感情・情動 1 感情平板化 2 抑うつ気分 3 高揚気分 4 感情失禁 5 焦燥・激越 6 易怒性・被刺激性亢進 7 その他 ( ) VII 意欲 1 衝動行為 2 行為心迫 3 興奮 4 昏迷 5 精神運動制止 6 無為・無関心 7 その他 ( ) VIII 自我意識 1 離人感 2 させられ体験 3 解離 4 その他 ( ) IX 食行動 1 拒食 2 過食 3 異食 4 その他 ( ) 1 てんかん発作 2 自殺念慮 3 物質依存 ( ) 4 その他 ( ) 1 暴言 2 徘徊 3 不潔行為 4 その他 ( ) 1 幻覚妄想状態 2 精神運動興奮状態 3 昏迷状態 4 統合失調症等残遺状態 5 抑うつ状態 6 躁状態 7 せん妄状態 8 もうろう状態 9 認知状態 10 その他 ( )
本報告に係る診察年月日	年 月 日
診断した主治医の氏名	Ⓢ

審査会意見	
県の措置	

備考

- 1  内は、主治医の診察に基づいて記載すること。
- 2 今回の入院年月日の欄は、今回貴病院に入院した年月日を記載し、入院形態の欄にそのときの入院形態を記載すること (特定医師による入院を含む。その場合は「法第33条第1項・第4項入院」、  
「法第33条第3項・第4項入院」又は「法第33条の7第2項入院」と記載すること。)。なお、複数の入院形態を経ている場合には、順に記載すること。
- 3 「生活歴及び現病歴」の欄は、他診療所及び他病院での受診歴も記載すること。

- 4 「生活歴及び現病歴」の欄は、前回報告の写しの添付でもよいが、新たに判明した事実がある場合には追加記載すること。
- 5 平成20年3月31日以前に広告している神経科における受診歴を精神科受診歴等に含むこととする。
- 6 「初回入院期間」及び「前回入院期間」の欄は、他病院での入院期間及び入院形態も記載すること。
- 7 入院後の診察により精神症状が重症であつて、かつ、慢性的な症状を呈することにより入院の継続が明らかに必要な病状であること等により1年以上の入院が必要であると判断される場合には、「任意入院継続の必要性」の欄にその旨を記載すること。
- 8 入院時より6月の間に、開放処遇が制限された者の6月経過時の報告においては、「過去12月間」とあるのは「過去6月間」と読み替えること。
- 9 「現在の精神症状、その他の重要な症状、問題行動等、現在の状態像」の欄は、この書類作成までの過去数月間に認められたものとし、主として最近のそれに重点を置くこと。
- 10 「診断した主治医の氏名」の欄は、主治医が自署する場合には、押印を省略することができること。
- 11 選択肢は、それぞれ該当する算用数字、ローマ数字等を○で囲むこと。

様式第19号中「保護者」を「退去者の家族等」に改める。

様式第21号を次のように改める。

様式第21号（第16条関係）

仮退院許可申請書

職 氏 名 様

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第40条の規定により、下記のとおり仮退院の許可を申請します。

年 月 日

病院所在地

病 院 名

管理者氏名

㊟

措置入院者	住所		
	氏名		生年月日
措置入院年月日			
仮退院中の帰住先	1 自宅（i 家族等と同居 ii 単身） 2 施設 3 その他（ ）		
帰住先の住所			
病名			
症状の概要			
仮退院の理由			
仮退院の期間			
仮退院期間中の治療計画			
今後の見通し			
訪問指導等についての意見			

様式第23号を次のように改める。

様式第23号（第17条関係）

入院患者事故届出書

職 氏 名 様

鳥取県精神保健及び精神障害者福祉に関する法律施行細則第17条第1項の規定により、下記のとおり事故があったので、届け出ます。

年 月 日

病院所在地

病 院 名

管理者氏名

㊟

記

精神障害者	住所						
	氏名				生年月日		
	入院年月日						
事故の状況	事故の内容						
	事故発生日時						
	事故発生当時の状況及び病院の とった処置						
	事故発生当時の 症状の概要						
	警察署への連絡 の有無	有・無	連絡した 警察署名			連 絡 年月日	
行方不明者を発見した 場合の状況	発見年月日						
	発見場所						
	発見後の措置						
家族等又はこれに準ずる者の住所・氏名等	氏名	(男・女)		続柄	生年 月日	年 月 日生	
		(男・女)		続柄		年 月 日生	
	住所						
	1 配偶者    2 父母(親権者である・ない)    3 祖父母等 4 子・孫等    5 兄弟姉妹    6 後見人又は保佐人 7 家庭裁判所が選任した扶養義務者(選任年月日 昭和・平成 年 月 日) 8 市町村長						

様式第24号中 「フリガナ ㊟ 性別」 を 「フリガナ ㊟」 に改める。

様式第24号の2中 「明治・大正・昭和・平成 年 月 日生(満 歳) 性別」 を 「明治・大正・昭和・平成 年 月 日生(満 歳)」 に改める。

様式第26号を次のように改める。

様式第26号(第21条関係)

精神障害者保健福祉手帳交付台帳

手帳 番号	氏名	生年 月日	等級	交付番号 及び交付	有効期限 (更新)	現住所	自立支援 医療受給	通院公費負 担医療担当	備考
----------	----	----------	----	--------------	--------------	-----	--------------	----------------	----

				年月日			者番号	医療機関	

## 附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、平成26年4月1日から施行する。ただし、第8条の改正規定は、同年10月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の鳥取県精神保健及び精神障害者福祉に関する法律施行細則に規定する申請書、届出書その他の書類は、改正後の鳥取県精神保健及び精神障害者福祉に関する法律施行細則の規定にかかわらず、当分の間、所要の調整をした上で使用することができる。